

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770302552		
法人名	株式会社 エコ		
事業所名	GHこいのさと 2階		
所在地	郡山市富久山町八山田字前林5		
自己評価作成日	令和4年7月21日	評価結果市町村受理日	令和4年10月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3
訪問調査日	令和4年9月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・洗濯物置みやお掃除など利用者様が出来ること、意欲的にやりたいと思われることをできるように支援し、役割や生きがいなどを持てるように支援しています。
- ・毎月季節に合わせた行事を行っています。
- ・口腔体操やラジオ体操などの機能訓練を毎日行っています。
- ・歩行が可能な方には、散歩など外気浴ができるように支援しています。
- ・スタッフ一人ひとりの能力の向上を目指し、毎月研修を実施しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今は新型コロナウイルスの影響で行われていないが、地域密着型サービスであることを念頭に、ホームの理念を考え、地域との関りを大切にして皆さんで支え合って生活できるようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今は新型コロナウイルスの影響で行われていないが、クリーン作戦などの地域行事に参加し、地域との交流を図るようにしている。また、地域のボランティアも積極的に受け入れを行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年に4回地域に向けて、こいのさとニュースを作成し、こいのさとでの活動と認知症についてなどの情報を載せ、読んでいただけるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	今は新型コロナウイルスの影響で行われていないが、2か月に1回、運営推進会議を開催し、ホームの現状や課題などを検討している。出た意見をホームの運営に役立てている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今は新型コロナウイルスの影響で行われていないが、介護サービス相談員や地域包括支援センターの方が毎月、2か月に1度訪問がありアドバイスをいただいていた。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	手足の拘束はもちろん玄関の施錠も拘束になることなどを定期的な勉強会を行い、職員で共有し理解を深めている。その他、スピーチロックなど行わないように職員同士でケアを見直ししたりしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的には高齢者虐待防止についての研修があるため、スタッフに参加してもらっている。勉強会などを通して、自身のケアはどうか、されたらどのような気持ちになるのか考える機会を作っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関しての研修もあるので、スタッフへの受講を促し、勉強会を通してスタッフへの周知を行っている。また、活用できるように支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な時間をとり、説明し疑問点はないか尋ね、分かりやすい内容や説明を行い、理解・納得してもらえるように務めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の要望によりリモート面会を行っている。状況の報告を行い何か意見や・要望があればスタッフへ周知を行い、改善に努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議やケース会議などの会議でスタッフ同士が意見交換できる場を設け、ケアや運営に役立てている。また、個人面談を行っており、一人ひとりの意見を聞けるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ホームの近況について、本社へ人員配置状況や健康状態などを記した、月次報告書を提出している。また、個人面談を行い職場環境への意見やスキルアップなどについてのやりとりを行い、ひとり一人にあった働き方ができるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や力量を考慮しながら、研修に参加してもらい、知識を深め実践してもらえるよう支援している。ホーム内でも勉強会を行い、スキルアップを目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	本社での会議や研修の際、他の事業所との交流を図っている。また、グループホーム協議会に加入しており、研修などを通して意見交換を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様やご家族様から、生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境からどのようなことに困っているどのような生活をしたいかなど聞き取り、サービス内容に活かしている。好きなこととしていたことなどなるべく継続していけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを利用するにあたって、ご家族様がどのような気持ちか、要望などを聞き取りを行い、少しでも不安を取り除いて、安心してサービスを利用してもらえるよう提供方針や協力体制について話し合いを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	関係作りを大切にし、その時のご利用者様の状況を見極められるようにし、他のサービス利用の対応も柔軟に行えるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフはご利用者様との信頼関係の構築に努め、日々の暮らしの中で一緒に役割ややりがいを見つけ、楽しんで行えるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族送付のお手紙や電話にて状況をこまめに報告し、介護方針の確認を行い、ともに支援していくことが出来るよう協力体制を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍は、ご家族様やなじみの人と交流が出来ていたが、コロナ禍でもリモート面会をおこなったりして関係が途切れないよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の相性を考慮して、席を決めたりしている。良好な関係を築いたり、お互いに協力し合える関係作りが出来るように必要に応じて仲介や席替えを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も、相談やフォローに応じることが出来ることを説明している。経過の把握に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様一人一人の思いや希望について居室担当を中心に全スタッフが普段の生活の中から思いや希望を直接聞き取ったり、普段の会話の中から組み取ったりして把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活や生活環境について、ご本人様やご家族様、その他関わった方から初期に情報を聞き取り、それらを継続できるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	暮らしの現状や関りの中で得た情報について個別に記録し、把握している。日々の申し送り時やケースカンファレンス時に話し合い、ケアプランに活かしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族様から要望を聞き、医療機関やスタッフから情報を収集し、モニタリングやアセスメントをもとにご本人に寄り添えるよう話し合いをしてケアプランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子や変化、ケアの実践について個別に分かりやすく記録し、情報の共有を行い、ケアの統一、ケアプランの見直し等に活かしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族様のその時の状態に合わせて、一人ひとりの希望や要望など情報収集を行い、地域の方や医療とも連携して支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの希望や出来る力を把握し、地域資源の活用しながら安全で豊かな暮らしが出来るように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族様からの希望にそったかかりつけ医を利用できるように関係性を大切にして、安心して医療が受けられるようにしている。受診の際には、今のご本人の状態をノートに記入し、伝えるなどして、先生とも関係性が築けるようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な医療連携体制の訪問を受けており、日々の体調の変化や不安なことを相談し、助言をいただくとともに医師との連携が円滑にいくように助言もいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、コロナ禍で面会が出来ない分、状況把握と病院関係者との情報交換や相談をこまめに行い、かかりつけ医とも連携し、スムーズな入退院に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期における指針についての説明を行い、意向を確認している。支援が必要になった場合、医師やご家族様と再度支援方法など確認し、共有できるようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備えて、定期的に訓練を行い、急変や事故発生マニュアルを作成し勉強会を行い実践力が身につくよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、避難訓練や搬送訓練、地震や火災が行った際の対応や避難の注意点を確認を行っている。コロナ禍以前は、地域住民の方にも訓練に参加していただいていた。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	権利擁護やプライバシー・接遇についての研修を定期的に行い、利用者一人ひとりのプライバシーを守り、尊厳のある生活ができるよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、気兼ねなく利用者から希望を言えたり、自己決定ができるように努めている。言葉で表現できない利用者もいるのでその時は、表情などからくみ取れるよう工夫し自己決定ができるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人一人ひとりの出来ること、出来ないことを把握し、自立度が高い方でもしたいことが出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい生活ができるように、馴染みの物は大切に、衣類はもちろんひざ掛けやスカーフなどの小物、整容の場面で好きなようにできるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	コロナ禍のため、一緒に話しをしながらは食べれないが、メニューを伝えたり、おやつなど何を食べたいかなど聞いたりして、楽しい雰囲気作りに努めている。誕生日や行事の時など、食べたいものなど聞いて、楽しんで頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、管理栄養士が栄養バランスを考慮して作成している。制限がある方もあるので、食事量と水分量と記録を活用し、一人ひとりの状況把握に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後ごとに、利用者様に対して口腔ケアの声かけとその方の状態と能力に応じた口腔ケアをおこなっている。また、歯科衛生士が訪問し口腔内のチェック、助言をいただいている。必要時には、歯科へ受診をすすめている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録やチェック表を用い、排泄パターンの把握を行い、表情やしぐさなどからもトイレへの誘導を行っている。動線も日々見直し、自分でなるべく行っておこなえるよう考えている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容や水分摂取、運動などを通して、便秘予防に努めている。医師との連携により利用者の便秘の解消に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は家庭的な雰囲気のお風呂場で、利用者の意思を尊重し、福祉用具を使用し安全に、ご本人のタイミングに合わせて入浴できるよう努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの希望を尊重し、生活パターンの把握を行い、居室の環境・寝具の調節を行い、馴染みの物で安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容や処方の変化については、申し送りや受診記録などを通して周知し、医師との連携も行い一人ひとりの症状に対応できるように努めている。不安なことは訪問看護師に相談し、勉強会などもおこなっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や嗜好の把握を行い、ご本人の能力を活かし役割や趣味活動の継続が出来るように支援している。コロナ禍以前は、地域の関りも大切にして、日本舞踊などのボランティアもお願ひし、楽しんで頂いていた。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍以前は、ご家族様の協力のもと、ドライブや外出の機会を設けていた。また、今は天気がいい日は外でお茶会をしたり、行事も屋外で行うなど気分転換を図っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	週1回パン屋が来て、自分で好きな物を選んで、支払うことをしていたが、コロナ禍で、支払いだけは職員で行っている。以前は、ご家族様と相談の上、お金の所持をしていただき、ご本人の希望により支払いを行っていただけのように支援していた。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様や知人との関係を大切に途絶えることがないよう、電話や手紙のやり取りの支援を行っている。リモート面会の時間も大切にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた飾りつけや行事を行い季節を感じてもらえるような工夫をしている。利用者様と考えて制作・飾りつけなども行っている。また、不快感や混乱をまねくような刺激についても軽減できるように工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席に関しても、利用者様の意見や相性などに配慮している。椅子だけではなく、ソファや和室を利用することにより、心地のいい環境づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	入居の際に、タンスなどなじみのある家具、仏壇やぬいぐるみなどの持ち込みが可能であることを伝え、ご自宅のようにその人らしい居室となるよう環境作りをし、安心して生活することが出来るように配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様のその時の状態に合わせて、手すりの設置や安全に移動することができるよう、動線の確認と住環境についての見直しを行っている。席や居室も分かりやすいよう工夫している。		